

大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 中央区教育委員会 総括文化財調査指導員（学芸員） 御名前 増山 一成 様

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 現時点では、何を期待するかということよりも、まず、何から始めて大阪・関西万博を出来る限り可視化できるか、そしてその内容が一般化できるか、世界的な認知を得るために当該万博の内容がよりユニバーサルな内容に出来得るのが重要ではないかと思っています。
- BIE 総会決議の目的「人類共通の課題解決策の提示」は、あくまでも指標（目標）としつつ、何よりも大阪・関西万博「独自のコンセプト（観念）」を8項目程度（ユニバーサルキーワード）設定し、この項目に基づいてすべての計画を推進していくことが望ましいと考えます。
- コンセプト設定に当たっては、相当なる英知を集めて一般化したキーワードを絞り出す作業が伴うため、1つには、具体化検討WGで想定するメインテーマに関する8分野程度の研究者・専門家（分野毎に複数のテクニカルディレクターが必要）に原案作成を委嘱し、最終的に中枢機関との協議検討の上で決定する。あるいは具体化検討WGで予め選定（「国際評価を得たSDGs17目標」+「Society5.0」÷「メインテーマ」=「大阪・関西万博独自のコンセプト（観念）」から導き出す）したユニバーサルキーワードに係る8分野程度の研究者・専門家を委嘱し、各分野の展示・出品の原則を確立させた上で計画を推進することが望ましいと考えます。
- 英知を結集した大阪・関西万博の独自コンセプトが、すべての計画に係る重要なキーワード「出品分類」となり、これらに基づいて日本館（企業館含む）を構想・計画・設計すべきであり、参加諸外国に対しても独自コンセプト（出品分類キーワード）の提示とこれに基づく展示・出品（パビリオン設計も含む）を考案していただくことが肝要であると思います。
- ①開催趣旨との合致②会場や施設全体におよぶ包括的意義③ユニバーサル④グローバル・パートナーシップ⑤個性・特殊性・多様性などを理念に掲げながら、十分な協議検討の上で設定したオリジナルコンセプトを柱とし、BIEへの登録申請に臨まれることを期待しています。
- 主催国の日本・参加諸外国ともに設定コンセプトの要求するところに則って出品・展示計画を取捨していく作業があれば、雑然・紛然として関連・統一性を欠いた万博が避けられるでしょうし、取り繕うように極端なビジュアル・アミューズメント重視の万博と化する（何を意図した万博なのか不明瞭となる）ことも回避できるのではないかと思います。
- 万博計画においてはメインテーマに基づく「哲学」をもって展開する必要があり、この点が国際見本市や展示会、アミューズメントイベントとは異なる存在意義の根幹だと思います。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- 大阪・関西万博のオリジナルコンセプト（8項目程度）に基づいた、各分野における日本の「最先端技術の実証」「SDGs達成への貢献」「各種分野の連携」などを提示することは必要だと思います。既に具体化検討WGなどでも出されているコンテンツキーワードをベースに基本構想を練り上げる作業を進めて良いと思います（多岐にわたりすぎてもブレが生じるため）。

- オリジナルコンセプトに基づく各分野の「未来社会へ向けた試案・提案・提唱」の立ち位置での展開がベターだと考えます。大阪・関西万博からの発信が、国内外で大いに議論されることは望ましく、未来社会の先見性や課題解決の正解提示が着地点ではないと思うからです。
- 特定分野に限定したコンテンツの一例示（実現可能性を問わず）にすぎませんが、次のようなものも大阪・関西万博が話題性と世界的な思考の場となろうかと思えます。コンテンツには、会場でしか味わえない興奮と楽しさ、そして参加者との共有・共感も重要な要素です。
 - ・ Society5.0 社会の試験モデルとして、次世代型の人工生態系の場「Biosphere Neo（バイオスフィアネオ）」を会場内に設けて、会期中6ヶ月間の実験生活を試みる。
 - ・「生命」と「科学」について考えるコンテンツとして、クローン羊ドリーの体細胞から生まれたクローン羊を会場に輸送して公開・飼育する（危険性がないことが前提で触れることも可能）。
 - ・ DNA・遺伝子分析（20歳以上）によるヘルスケア検査と祖先ルーツの発見の場を提供する。
 - ・ 人間の感情や認知プロセス測定機器により、自分の感情を最新の脳科学で可視化できるよう試みる。
 - ・ AIと人間との公開対戦（チェス・囲碁・将棋など）の場を提供する。
 - ・ 大阪・関西万博の独自コンセプトあるいはメインテーマに基づいた、世界アートフェスタの場（エンターテインメント性・アミューズメント性のみ追求ではない点が最大の特徴）を提供する。会期中に公演される様々なアート（音楽、美術、演劇・舞台芸術・映画など）は大阪・関西万博のために制作されたものであり、世界のアーティストが万博のコンセプト・テーマで創作発表する場を提供。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

（例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等）

- 会期中の運営や来館者の誘導などは、IoTによる会場環境や来館者動向データの収集、そしてAIによる解析と誘導などを駆使して Society5.0 社会の試験的な場として次世代に生かす。
- 自然災害大国の日本故に、世界へ向けた先端の防災・減災技術の可視化と体感を試みる。
- 水辺に囲まれた埋め立て会場の利点を活かし、海上からのアクセス（次世代型の輸送システムなどの試験開発も含む）整備とともに、瀬戸内など周辺観光にもつながる輸送計画を立てる。

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

- 1940年日本万博チケットの使用延長と今期万博チケットに新たな価値を付加（抽選券付）
 - ・ 当選内容は大いに議論（日本円、ファストパス、イベント優先参加、万博基金、国際的支援の資金）。
- 複数のフォーラムディスカッション（万博コンセプト・メインテーマに基づくテーマ）を開催
 - ・ 特に、参加国から招待来日した各国の若者たち（中高生～大学生程度）のフォーラムの場とし、2025年大阪・関西万博の場において、設定テーマを基に討論と交流を行い、次世代への架け橋としたい。
 - ・ 未来社会のデザインに正解は必要なく、万博の場で参加国間の意見交換（国家・政府間外交によらない交流）を行ったことそのものに意味があり、フォーラムの事実と交流記録をレガシーとする（※国内の専門家・研究者などからコーディネーターが必須、最終的にBIE公認の記録を多言語で発行）。
- 大阪の水辺豊かな場所が会場になることもあり、水上や海上交通史、治水や水災害等、水の問題に関心の強い天皇陛下（近年のご著書『水運史から世界の水へ』などを参照）にいらしていただき、ご講演いただいてはどうか。